



バラ栽培における樹形管理方法の改良で収量増

—改良切り上げ方式で収穫本数が増加します—

開発の背景・ニーズ

県内のバラ生産農家は、収穫方法が簡単で長い切り花が収穫できる一方、収量が少ない「アーチング方式」で栽培しています。このため、かつて高生産技術として利用されていた「切り上げ方式」を改良し、収穫量を向上し収穫作業を容易にする「改良切り上げ方式」の開発に取り組みました。

成果の内容

アーチング方式が、常に株元から採花するのに対し、従来の「切り上げ方式」は樹勢を維持しながら採花位置を判断するため、収穫に高度な技能と経験を必要としました。

「改良切り上げ方式」は採花位置を高さのみ（1段目は株元から20cm、2段目を30cmとし、以後5cmずつ切り上げ）で決めるため、収穫や樹形の管理が容易で、雇用労力による収穫作業も可能となります。また、採花後の萌芽が早く採花サイクルが短くなると共に、萌芽数が増加し、いずれの階級でも収穫本数が増加しました。

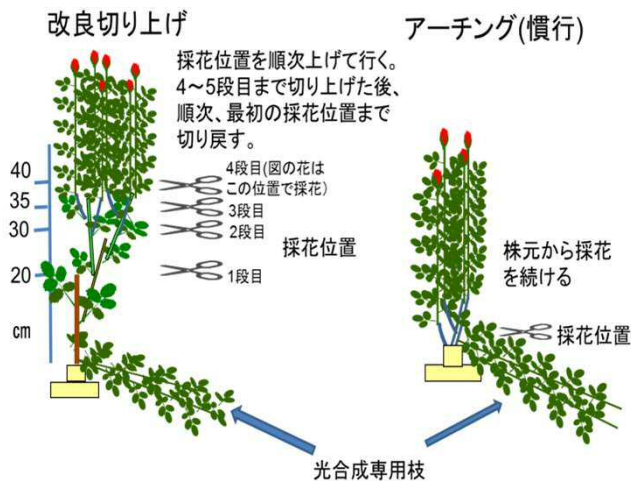


図1 仕立て方法模式図

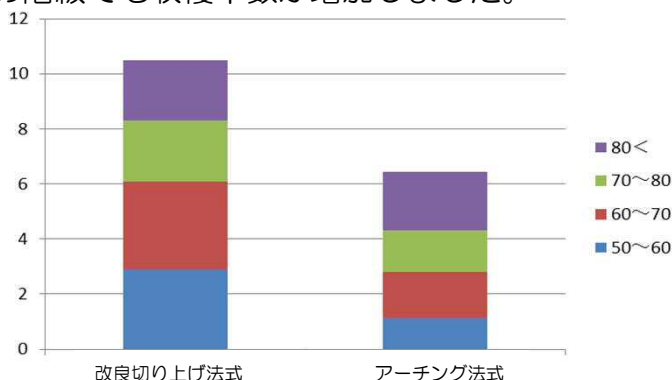


図2 株当たりの切り花階級別収穫本数



図3 旬別株当たり収穫本数の推移 (2015年7月~12月)

愛知県農業への貢献

この「改良切り上げ方式」は、施設規模や樹齢にかかわらず、現状のアーチング方式に比較して大幅に収穫本数の増加が見込め、バラ切り花農家の経営の安定に繋がります。また、簡易な収穫方法であるため、雇用労力による収穫作業が可能となり、作業性が改善されます。

【本研究は「農水省委託プロジェクト研究『実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発』」で実施しました】